

# 体験的学習を取り入れた衣服の はたらきを考える教育プログラム

教育実践専攻

15AW121 風間 里恵

指導教員 薩本 弥生

## 1. 目的

省エネルギー対策と健康性や快適性の確保を両立することを目指した「クールビズ」や「ウォームビズ」が社会で定着し実行されつつある。衣服を着用する私たちが身体と衣服の間に生じる微小空間の温熱環境である衣服内気候を快適な状態に保つ方法を知識として、定着させ、実践する力を身につけることが重要となる。衣服は人体と一緒に手軽に持ち運べ、個別に調節可能でエアコンより省エネであるため、持続可能な社会の構築のためにも大切な考え方であり、室内環境とともに衣服の整え方の工夫や考え方を伝える教科として家庭科教育が果たす役割は大きいといえる。社会生活上の機能としての要素が大きい衣服である制服を、日常的に快適に着こなす方法を体験的に学習することは、今後の社会生活における実践的な態度を育成するためにも意義のあることといえる。

また、既制服が衣生活の中心的な役割を果たす中、ファッションへの興味関心が高まる中学で保健衛生的な機能が損なわれないよう、社会的機能とのバランスをとる着装教育をする必要がある。しかし、中学生になってから私服を購入する機会がほとんどなかったり、購入や着用する衣服の選択は中学2年まで母への依存度が大きく家庭での考え方が大きく影響したりする中で、着装学習を学校で実施し知識の定着を図っても、着装実践を親に委ねては実践的な態度の育成につながりにくいと思われる。

そこで本研究では、社会生活上の機能としての要素が大きい衣服である制服を快適に着こなす視点を主軸にした教育プログラムを試案、実践し、生徒の変容を見るために行ったアンケート調査の分析からこの教育プログラムの効果を検証し、提案することを目的とする。

## 2. 研究内容・方法

教材開発に先立って暑熱環境下でのYシャツのデザインを比較した実験により、Yシャツのデザイン効果が明らかになった。この結果や生徒の実態を受け、衣服の開口部のデザインの影響やインナー着用の効果を体験的に学習できる教育プログラムを考案した。

**2-1. 教育プログラム内容：**中学3年生を対象に実践した。このプログラムは、ポリ手袋と綿手袋を用いて、小学校の衣服の保健衛生上の機能の学習を踏まえ深められるような体験的な学習を組み込み、社会生活上の機能としての要素が大きい衣服である制服用Yシャツ

を快適に着こなす衣服のはたらきを実感し考えられるようにした。また、修学旅行を学習の実践の場として設定することで、衣服の機能をはじめとする、着用目的、衣服購入時の観点、衣服計画などを考慮し、生徒が服装を自ら考え、決定できるよう学習の必然性を持たせるようにした。

**2-2. 調査のデータ分析方法：**調査は事前（対象生徒が2年次（3月））、授業直後（5月）、修学旅行後（7月）に、衣服の選択や着用時に考慮する視点を項目としたアンケートを行った。データの分析には、統計処理ソフト SPSSver. 25 を使用し平均値の差の検定を行った。また、授業プリントと修学旅行後に制作したレポートの記述を類型化し集計した。質的・量的に分析を行い、生徒の学びの状況について考察した。

### 3. 結果と考察

授業前後に対しての対応のある平均値の差の検定から、13項目中「インナー着用」以外の12項目で認識の上昇が有意に認められた。「気候に合わせた機能性インナー着用」「天候を考慮し、開口部デザイン選択」の項目で有意差が認められたことは、暑熱環境下において汗を効果的に処理する方法の理解がポリ手袋と綿手袋を用いた実験から体験的学習を通して深まったことを意味すると推察される。

また、「手持ちの衣服考慮」「表示の確認」「衣服の機能性確認」「洗濯容易確認」の項目でも生徒の意識が有意に引き上げられた。修学旅行を学習の実践の場に設定したことで、学習の目的がより明確に、具体的な手立てとして認識されたと考えられる。このことは、授業直後と修学旅行後の比較で「機能性確認」「天候考慮」のみ有意差が認められ、他の項目では有意差が認められなかったことから実践の場を設定し学習したことの効果の表れといえる。

授業直後と修学旅行後の比較で量的な有意差は認められなかったが、「インナーが汗を吸収しYシャツが直接濡れずにいた」など修学旅行でインナーを着た効果や「Yシャツが濡れてしまった」など暑熱環境下での活動で汗の処理をしきれず、Yシャツのように汗を処理しない衣服の下にインナーを着る必要性、半袖を着用することで「空気の流れ」による快適さを得ることができると理解したことが、記述に実感を伴った言葉として表現されていた。また、「統一感があった」など制服の社会生活上の機能や、「手持ちの衣服で様々な組み合わせができた」など衣服計画の必要性を実感したことが記述より読み取れた。

Yシャツを快適に着こなすための着方の工夫に関する理解が、生徒が自ら服装を考え決定する過程を含む修学旅行という実践の場を通して、実験に基づく理解から実感を伴った理解、実践する態度を育成することにつながったと考えられた。

### 4. まとめ

衣服の保健衛生上の機能が損なわれないよう文化・社会的役割とのバランスをとることの学習として、体験的学習を取り入れた本教育プログラムが生徒の実体験に基づく実感を引き出し、実践による学習の定着に効果が期待できることが示唆された。